

宮農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道宮農センター ☎0848-56-1231

浦崎支店 ☎0848-73-3311

尾道北宮農センター ☎0848-29-9611

御調支店 ☎0848-76-2242

向島宮農センター ☎0848-44-2106

甲山支店 ☎0847-25-5035

因島宮農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

世羅宮農センター ☎0847-25-5029

東生口出張所 ☎0845-28-0211

水稲

南部地区中生品種の田植作業も終わり、北部地区の早生品種では中干しを開始する時期となりました。

本格的な梅雨シーズンの前に、生育状況の確認や今後の管理作業について確認をしておきましょう。

【病害虫防除】

本田での病害虫防除の第一段階として、田植時に実施した箱処理剤の効果は田植後60日程度です。

効果が弱まる時期にいち病の感染拡大

大条件が重なると、穂もち発生リスクが高まるため注意が必要です。

ただし、第2段階の防除となる出穂前防除は、粉剤や液剤を利用する場合が多く、散布日が天候に左右されます。時期を逸しないよう注意してください。

【中干し】

中干しの効果は『倒伏防止』、『根の健全な育成』、『無効分げつの抑制』等があります。表①を参考に、1㎡当たりの茎数350本を確保できたら、実施してください。

中干しの期間は、圃場条件、天候等によって異なりますが、7～10日間程度実施し田面に少しヒビが入る程度まで行いましょう。

表①

植付間隔	1株当たりの分けた 茎数の目安
幅30cm× 条間18cm	20本
幅30cm× 条間24cm	25本
幅30cm× 条間30cm	30本

また、この時期の高温多照は分げつ過剰を引き起こし、穂数及び粒数過剰によって品質低下を招くことがあります。

その場合は中干し時期を早めることによって、分げつの過剰発生を抑えます。

中干し後は、いきなり圃場に水を入ればなしにすると、根腐れを発生させ

る心配がありますので、かけ流しや浅水状態で管理し、間断灌漑を行い、根を水に慣れさせるようにしてください。

幼穂形成期～出穂期には水が最も必要な時期です。粒数の維持に努めましょう。

また、幼穂形成期(出穂の25日前)の葉色を確認しましょう。薄いようでしたら一発肥料を使用した圃場においても、追肥の要否判断をおこなってください。

【雑草防除】

イネは雑草の影響や害を長期にわたって受けます。水管理や除草剤の適期使用により、雑草の発生を抑制しましょう。

ポイントとは、どの雑草においても『生育初期』が必ず存在するということです。早期に対処することで、被害拡大を抑えることが可能となります。発生が確認された場合は中後期除草剤を活用し、防除を実施してください。

【災害対策】

豪雨災害等による圃場の被害確認は、2次災害を招く恐れがありますので、まずは身の安全確保が最優先となります。後に、安全が確認されてから圃場、水路等の点検作業を行ってください。

圃場に冠水の被害が発生した場合は、早急に排水に努め、1枚の葉でも早く水上に出すことで、被害を軽減することができます。

また、水温の上昇抑制や濁水の排出の

ため、清水をかけ流しながら行くと効果的です。

冠水が激しかった圃場では、気孔や傷口から、稲白葉枯病菌が侵入する可能性があります。発病した場合、最大40%の減収となる可能性もありますので注意が必要です。排水後、オリゼメート粒剤(3～4kg/10a)を散布してください。

柑橘

6月は黒点病の重点防除時期です。ジマングイセンの残効は、累積降雨250mmもしくは30日です。防除とあわせて枯れ枝の除去を徹底しましょう。

【新梢の間引き】

本年度は新梢が多く発生し、薬剤がかり難い状態の樹が多く見られます。マシンド散布前に新梢の間引きを行いましう。

【中晩柑類の荒もぎ摘果】

大玉果実生産には、荒もぎ摘果の時期と量が大切です。生理落果の終了する6月下旬頃から品種ごとの適正果実比の8割を目安に摘果しましょう。また、摘果と兼ねてかぶさり枝や込み入った枝を間引きましょう。

◆八朔・紅八朔・葉果比80～100枚に1果
荒もぎ摘果終了時に、大きい麦わら帽

摘果の目安

品 種	残す果実	落とす果実	葉果比	ポイント
ネーブル	5～6枚の総状有葉果の2番果	直花果、扁平果、へそ大果	80～100	裂果しやすい果実を摘果する
ハ 朔 甘 夏	5～8枚の単生有葉果	直花果、裾なり、腰高果	80～100	ヤニ果に注意する
デコボン	5枚以上の単生有葉果	へそ大果、扁平果、遅れ花	100	主枝先端全摘果 6月に1発摘果
は る み		直花果、内なり果、キズ果	80	隔年結果は正は半樹摘果が有効
清 見		直花果、内なり果	80～100	摘果時に芽つみを実施
は る か		内なり果、裾なり、天なり	80～100	果実周囲のトゲ切り 天成り果実摘果
レ モ ン		傷 果	30	引っ付いた果実摘果

子の範囲に2～3個着果させます。
また、摘果時はハサミを使用して摘果しましょう。流れヤケ防止に枯れた果梗枝は摘み落としましょう。

◆しらぬひ(葉果比100枚に1果)
6月下旬に適正葉果比まで摘果し、大玉で酸の低い果実生産を行いましょ。樹勢維持のため主枝先端は全摘果しましょう。

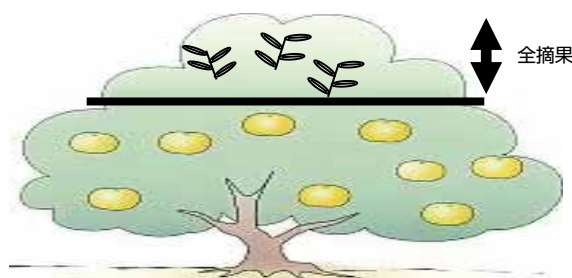
摘果の目安は、野球帽の範囲に1から2個着果させます。

◆はるみ(葉果比80枚に1果)
はるみは生理落果が少ない品種です。

そのため適正着果量まで摘果できず、次年度不作になる園地が多くなっています。はるみが毎年成らない人は半樹摘果方法を取り入れましょ。方法は豊作年のはるみに対し樹の半分を全摘果します。着果させる側は葉果比80程度にします。

◆中晩柑類の薬剤摘果
果実の平均横径が20mm程度の時、ターム水溶剤1,000倍を散布することに

樹冠上部摘果



通常は9月に2L以上と2S以下になる果実を摘果する。肥大の悪い場合は8月上旬に内成・裾なりを摘果する



▲単性有葉果(新芽の先に1個果実がついているもの)
中晩柑類(ネーブルを除く)は5枚～8枚の単性有葉果が高品質果実になります

より小玉だけを落果させることが出来ま。詳細は指導員にご相談ください。

【灌水】

中晩柑類は10日以上降雨が無い場合、10アル当たり20～30mmの灌水を実施しましょう。

みかんは満開後60日まではしっかりと灌水しましょ。満開60～100日の間は節水管理しましょ。

【夏肥の施用(2回目)】

果実肥大促進のため、梅雨が明ける前に施用しましょ。BB元気200を使用した園地では、夏肥の2回目は施用の必要はありません。極早生・早生みかんは施用しません。

【病害虫防除】

◆黒点病

黒点病防除剤のジマンダイセン水和剤は累積降雨250mmもしくは散布後30日が再散布の目安です。早めの防除を心がけましょ。

◆ミカンハダニ

ハーベストオイルを葉裏にもかかるよう丁寧に散布しましょ。ジマンダイセンを混用散布する場合は乾きやすい日に散布しましょ。

◆ヤノネカイガラムシ

近年、ヤノネカイガラムシが増加傾向にあります。多発すると全滅が極めて困難になりますので、トランスフォーム



▲幼果期のヤニ果



▲収穫期のヤニ果

◆ゴマダラカミキリ対策
モスピラン顆粒水溶剤400倍を主幹から株元へ散布します。いじは被害を受けやすいので注意しましょ。

【ハ朔やニ果対策】
ハ朔のヤニ果はホウ素欠乏が原因と言われています。欠乏の原因は、乾燥や土



▲レモンの遅れ花に飛来したアザミウマ



▲アザミウマ被害

ロアブルで防除しましょ。

◆レモンの花アザミウマの防除
6月から7月上旬頃に発生し甚大な被害が出る場合があります。遅れ花をよく観察し、多発の場合はスピノエースフロアブル等で防除しましょ。



▲ヤノネカイガラムシ

壤PHが高過ぎるもしくは低過ぎるのが原因です。灌水や土壌管理を徹底しましょう。また、毎年発生が多い園ではマルポロン8000倍を6月と7月に葉面散布しましょう。

【みかんの隔年結果是正対策】

豊作樹では、隔年結果是正のため豊作の樹に対して7月上旬までに、樹の上3分の1の果実を全摘果しましょう。実施すれば隔年結果を是正できます。

着果部は9月末までに葉果比25枚程度まで摘果してください。

落葉果樹

ぶどう

「ハウス栽培」

◆灌水

着色期から収穫期はやや乾燥気味に管理しますが、定期的に灌水を行って、樹勢を維持してください。収穫の終わった園地では、しっかり灌水を行い樹勢の回復を図りましょう。

◆温度管理

この時期はハウス内の温度が高くなり、日中30℃を超えることが多くなりますが、高温は養分を消耗させ着色不良の原因となります。風通しを良くし、換気

を行い、25〜28℃を保つようにしましょう。

【露地栽培】

◆房づくりと着果量調整

着果量(房)が多いと肥大不良・糖度不足・着色不良を招きやすくなります。2回目のジベレリン処理前までに摘粒・摘房を行ってください。

◆新梢管理

新梢は開花後一時的に弱くなり、結実後再び伸長を始め、果粒軟化期ごろに伸長を停止するのが理想的です。

開花前後から副梢が発生し始めますが、副梢は果実の成熟期には本葉よりもよく働きます。副梢は1〜2枚葉を残し

表-1 (房作りと収穫の目安)

品種	1房粒数	1粒重	1房重	1坪当たり房数	10a当たり房数	着色始めからの日数	糖度
デラウェア	100粒	1.4g	140g	35〜40房	12,000房	30日	18度以上
ベリーA	70粒	6g以上	400〜500g	18〜20房	5,000房	40〜45日	17度以上
ピオーネ	30〜35粒	17g以上	500〜600g	10	2,500〜3,000房	45日	17度以上
シャインマスカット	35〜40粒	15g以上	550〜650g	12	3,000〜3,500房	45日	17度以上

て摘心し、果実品質を向上させるために利用しましょう。

実止まり確認後の防除には、展着剤を入れると果粉が落ちるので使用を控えましょう。

もも

収穫に際しては、果実の着色程度をよく確認して、適期の収穫を行います。収穫は、午前中の気温が低い時間に行い、置き場も果実温度が上がらないように注意しましょう。

収穫期に入ってから降雨は、果実品質低下を招くので、マルチ被覆、排水溝の整備をして園内の排水を良くしましょう。

◆注意する病害虫

シンクイムシ類、モモノゴマダラノメイガ、灰星病、黒星病、赤点病



▲シンクイムシ被害

いちじく

◆副梢の整理

摘心した後に副梢が発生します。副梢をそのままにしておくと、果実の着色不良や、肥大遅延を引き起こしますので、

発生した副梢は結果枝の先端1本を残し、2〜3枚で再度摘心を行いましょう。その後再び発生する副梢は、随時かき取りましょう。

副梢の発生が多い樹(園地では)、剪定や肥培管理などを再検討する必要があります。

◆灌水

梅雨明け後の灌水は、いちじくにとって果実肥大や収量などに大きく影響します。梅雨明け後、乾燥した日が続くと小玉果やヤケ果、更には早期落葉などの原因となりますので、晴天が続くようであれば3〜5日おきに灌水を行いましょう。

◆乾燥防止対策

梅雨にしっかり雨が降ると、いちじくの根も土壌表面に集中しています。梅雨明け直前に、表層根の保護と乾燥防止のために、敷きわらなどの被覆資材を設置しましょう。

◆注意する病害虫

カミキリムシ類、アイノクイムシ、ハダニ類、さび病、そうか病、イチジクモンサビダニ、イチジクヒトリモドキ



▲ハダニ被害果

なし

◆摘果

3果そうに1果の割合になるように摘果します。横向きか斜め上向きの果梗枝が太く長いものを残すようにしてください。主枝と亜主枝の先端部分の果実は、全部摘果してください。

◆灌水

なしは、灌水により玉太りが良くなりますので、しっかりと灌水してください。

家庭菜園

6月、7月の気温は、平年に比べ高くなる見込みです。

また、本格的な梅雨入りを迎え、病害虫が発生しやすい時期にもなります。天気予報などを参考にして適切な管理を行います。

また、作業の時には水分補給をしっかりと行いましょう。

【梅雨対策】

露地栽培の場合は畝や畑の周りに溝を掘り、排水を促しましょう。また、可能であれば藁やもみ殻を株元に敷くと、雨水による土の跳ね返りを防ぐことができます。そのため、病気の予防効果が期待できます。

【品種ごとの生育診断】

◆トマト

トマトは、茎の先端の葉で草勢判断ができます。図を参考に状態を把握しましょう。

栄養が適度な場合は、2〜3週間おきに、不足している場合はすぐに追肥を行います。

綺麗な実を作るには、適切な水管理が重要です。乾いたところに急に水が入る

栄養過剰



葉面にでこぼこができ、葉はカールする。

栄養が適度



葉面が水平になる。

栄養が不足



葉は上に向いて細く、葉脈が紫変する。



この図の場合
根元の実と、先端から
2番目の生育の悪い実
を間引いている。

と実が割れ、水分が不足した状態が続くと実が太らず皮が固くなってしまいます。また、灌水不足は尻腐れ症の原因にもなりますので注意しましょう。

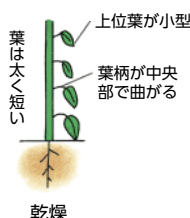
また、トマトの実房状に付きませんが、根元と先端の実を取ると形が揃いやすくなります。

◆ピーマン

根が浅く乾燥しやすいので、こまめに水を与えましょう。葉や茎の状態で、水分の過不足を判断できるので、参考にしてください。

花が株の先端で咲いたり、花に実がつかず落ちてしまう場合、肥料不足と判断します。一度実をすべて取り除き、

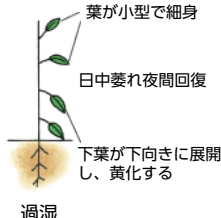
水分の過不足の判断



乾燥



適湿



過湿

追肥と灌水を行いましょう。

◆ナス

収穫期間が長いので、生り疲れさせないように、実が生り始めたところからこまめに肥料と水を与えましょう。新しく咲いた花の柱頭が短い場合、樹勢が低下しているので追肥を施しましょう。

※他の野菜も柱頭で樹勢の判断が出来ます。



◆キュウリ

収穫期に入ると、実が次々に大きくなっていきます。取り遅れると食味が落ちてしまうので、最盛期には朝と夕方に収穫を行います。

野菜の実は水分、肥料、着果位置、日照、気温、風通しなど様々な影響を受けながら育ちます。キュウリは特にその影響が出やすく、真っ直ぐで形の良い物ばかりを作るのは難しいです。水分と肥効が切れないように管理を行うのが大きなポイントになりますが、形が悪くても食べる分には問題ありませんのであまり気にしないようにしましょう。